

## 第三者意見

環境報告書の信頼性向上に向けて、環境活動で優れた取り組みをされている国立大学法人電気通信大学に環境報告書の内容について意見をいただきました。学外の方から見た本学の環境問題への取り組みや環境報告書の記載内容についての意見を参考に、今後の環境活動や環境報告書作成の改善を図ります。

名古屋工業大学の環境報告書は、環境最高責任者である学長のトップマネジメントのもと、大学の構成員一人一人が地球環境に対する配慮を意識し、産業界や地域社会とともに継続的に環境問題に取り組む重要性を掲げ、キャンパスを取り巻く環境の現状を正しく認識して改善するとともに、環境に関する多様な取組を積極的に行っていることが伺える内容となっています。

研究活動や授業の再開により教員や学生が大学構内に本格的に戻ってきた 2022 年度は、総エネルギー投入量が前年度よりも増えていますが、コロナ禍前より継続的に削減できていることは、計画的な省エネルギー機器への更新、大学全体のエネルギーや廃棄物の削減への取組の成果であり高く評価できます。グリーン購入・調達は、2017 年から継続して 100%を達成しており、今後も是非これらの取組を継続して欲しいと思います。

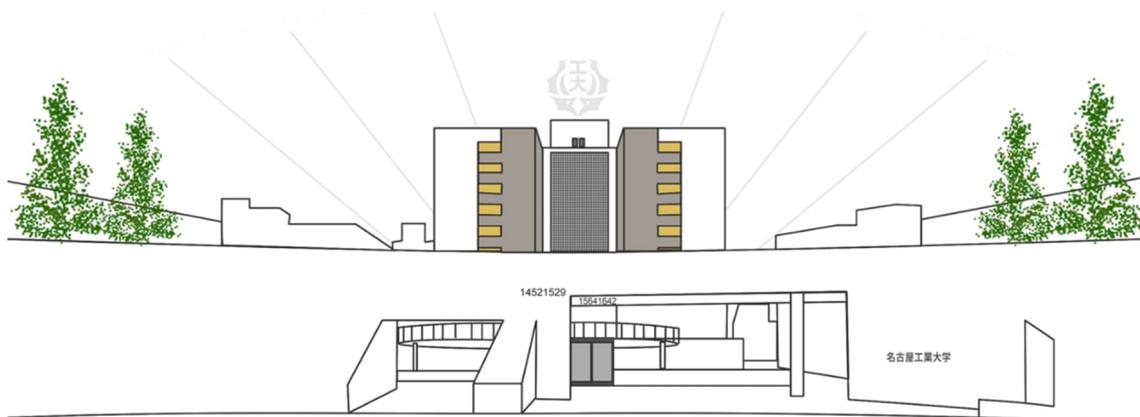
環境に関する様々な教育と研究の内容は、何れも理工系大学ならではの取組であり、また、「環境にやさしいシェアサイクルで理想のまちづくり」は、交通手段を自動車から自転車利用に促すことで、自動車から排出されている CO<sub>2</sub>を削減し、地球温暖化対策に期待が持てるだけでなく、地域問題となっている放置自転車問題への解決につながる地域貢献活動として感銘を受けました。

今後も貴学が掲げる「心で工学」を合言葉に、アートフルキャンパスをプラットフォームとしたりベラルアーツ教育に重点をおいた“ひとづくり”の環境整備などの推進により、平和で明るい“未来づくり”に貢献されるとともに環境配慮活動をさらに発展されますことを祈念いたします。

2023 年 9 月

電気通信大学理事(総務・財務担当)

安全・環境保全室長 三浦 和幸



## 監事評価

環境配慮促進法第9条第2項では、「特定事業者は、環境報告書を公表するときは、記載事項等に従ってこれを作成するように努めるほか、自ら環境報告書が記載事項等に従って作成されているかどうかについての評価を行うこと、他の者が行う環境報告書の審査を受けることその他の措置を講じることにより、環境報告書の信頼性を高めるように努めるものとする。」と定められています。

このことにより、環境報告書の信頼性を高めるために評価を実施しました。

### 評価報告書

- 1 評価実施者  
名古屋工業大学監事 雑賀 正浩  
同 二村 友佳子
- 2 評価実施日  
2023年 8月31日～同年 9月 4日
- 3 評価の対象  
国立大学法人名古屋工業大学「環境報告書2023」
- 4 評価の方法  
環境配慮促進法、同法第8条に基づく環境報告書の記載事項等(環境省)、及び環境報告ガイドライン2012年版(環境省)を基準として評価しました。
- 5 評価の結果
  - (1) 名古屋工業大学「環境報告書2023」は、上記環境配慮促進法等の評価基準に基づいて作成されており、記載情報及び取組内容の正確性が確認できたことから、適正であると評価しました。
  - (2) 日本で2020年春に始まったコロナ禍により、大幅な縮小を余儀なくされた大学の活動も、2022年度からは、段階的に、感染開始前の2019年度の水準に戻ってきています。  
そのような状況下において、本書9頁から12頁に掲載されている総エネルギー投入量から一般廃棄物排出量までの各データが、コロナ禍前の2019年度の数値を下回っていることは、評価できると思われます。
  - (3) 教育・研究活動が活発化するに伴い、本書15頁から16頁に掲載されている実験系廃棄物や化学物質の量は、全体として増加傾向にあります。  
環境負荷の低減のために、引き続き、それらの適正管理の徹底と、廃棄物発生及び化学物質の使用抑制のための工夫を期待したいと思ひます。
  - (4) 本書31頁で取り上げられたシェアサイクルは、レンタサイクルとも異なる特徴を持つ新しい公共交通システムであることが紹介されていて、さらに認知度が高まることを期待したいと思ひました。
  - (5) 本書34頁で取り上げられている名古屋工業大学工大祭実行委員会、生協学生委員会及び活動環境委員会 NEP(Nit Environment Project)部の各活動は、学生の皆さんの地道な活動が積み重ねられ、長年続いてきたものです。  
環境改善活動の身近な具体例として、参考にして頂きたいと思ひます。